

片平キャンパスの新しいエントランス空間の創造

老朽化した北門食堂の建替えに伴う施設整備だけでなく、食堂や店舗、交流スペースと合わせて屋外環境をデザインすることで、人々が集い、憩う、にぎわいのある新たなキャンパスの顔を形成



8F：家族用 住戸 A



6-8F Plan

3～8階はユニバーシティ・ハウス片平。研究員の宿泊施設となる6～8階は単身者用(約27㎡)から家族用(約56㎡)までニーズに合わせた4種類の住戸を整備



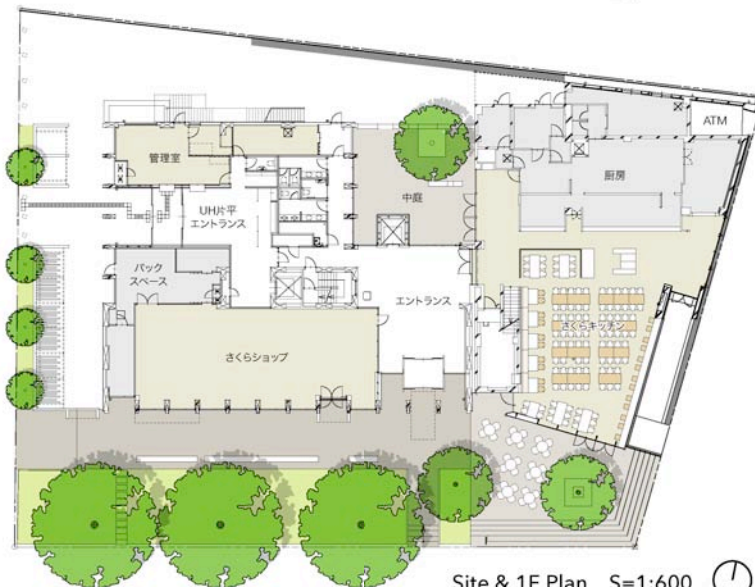
2F：セリシール

2階の北門ラウンジは主に、萩友会に所属する卒業生のための空間として整備。ゆったり寛げるソファやちょっとしたミーティングもできるテーブル席を設置。2室に仕切り、会議室として使用することも可能。エスパスは外からでも中の様子が感じられる開かれた72席のセミナースペース。セリシールは自由なラウンジとしての機能と、来賓対応のレセプションルームとしての機能を持ち、春には満開の桜を眺めることができる



2F：北門ラウンジ

向かい側の整備済みの北門周辺のオープンスペース・歴史的建造物と、さくらキッチンやテラス、さくらショップ、さらには桜並木とその足元の空間が一体となり、片平キャンパスのにぎわいある新しいエントランス空間を演出



Site & 1F Plan S=1:600

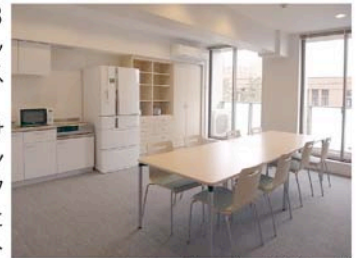


南側外観：建物は歴史のある片平キャンパスらしくスクラッチタイルを用い全体的に落ち着いた色を基調としている

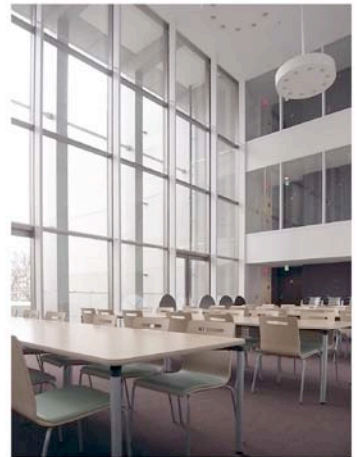
学生寮となる3～5階は8人で1つのユニットを構成しオープンリビング、洗面スペースなどを共有。3階には5階までの吹抜けを持つスチューデントラウンジを設け、空間的に学生フロアの縦の繋がりを創るとともに、学生主体のイベントを盛んに開催できるようにデザインしている



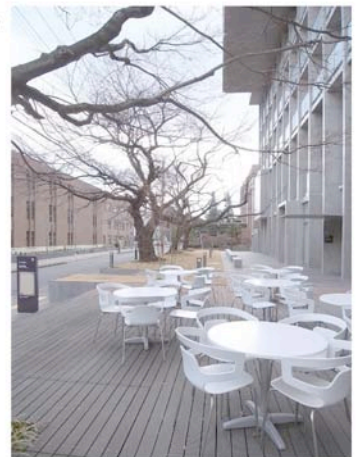
3-5F Plan



3-5F：オープンリビング



3F：スチューデントラウンジ



1F：テラスとオープンスペースと桜並木